

「よろしかったでしょうか」に関する一考察*

松尾秀樹**

A Study on “Yoroshikattadeshouka”

Hideki MATSUO

1. はじめに

「よろしかったでしょうか」という表現は、「お弁当のほう、温めますか」「1万円からお預かりします」などととも、1990年代末頃から、ファミリーレストランやコンビニエンスストアなどで店員によってしばしば使われはじめた表現とされていて¹⁾、「間違った日本語」として取り上げられ批判されることがある。

一方、「よろしかったでしょうか」という表現は、現実には、広く使われていることから、この現象に関する調査・研究も多くなされてきている。さらに、英語の過去形で丁寧さを表現できることと共通性があるのではないかということを示唆する論述もある。

本稿は、「よろしかったでしょうか」という表現に関する論述をできるだけ多く扱い、整理し直し、「よろしかったでしょうか」の「タ」²⁾の用法や表現の背景にある事柄について考察し、また、英語の過去形との接点がないかどうかを探ることを目的としている。

2. 3つのパターン

「よろしかったでしょうか」という表現自体については以前からあり、従来からある使用法については特に問題とされてこなかった。例えば、首藤(2007)は、以下の(1)、(2)、(3)の3つの例を挙げ、これらは、「よろしいでしょうか」では表現できない意味を持っている伝統的使用法であるとしている(p.257)。

(1)「ホテルのフロントで、あらかじめ電話で宿泊の予約を行った客に対して」

フロント係「ご滞在は23日の朝まででよろしかったでしょうか」

(2)「当初に食後の飲み物を含む注文をした客に対

してウェイターが食後に」

「食後のお飲み物はホットコーヒーでよろしかったでしょうか」

(3)「緊急の事態が生じた時点で連絡がとれなかった上司に部下が」

「取り敢えず9時半に会議を開くように手配をしておきましたが、それでよろしかったでしょうか」

塩田(2002)は、(1)、(2)の「よろしかったでしょうか」については、「自分の記憶を確認する用法(記憶確認用法)」、(3)の例を「自分がすでにしてしまった行為に問題がないかどうか確認する用法(妥当性確認用法)」としている。

一方、首藤(2007)は、近年問題とされている「よろしかった」の使用を以下の(A)・(B)・(C)の3つのパターンに分けている(p.256)。

(A)「ファミリーレストランで注文後に」

店員「コーヒーとパンケーキセット、ご注文は以上でよろしかったでしょうか」

(B)「ファミリーレストランに入っただけに」

店員「禁煙席でよろしかったでしょうか」

(C)「ファーストフード店の注文カウンターで」

客「チーズバーガー一つとコークのスマールください」

店員「フライドポテトはよろしかったでしょうか」

「よろしかったでしょうか」に関する論述で一番議論の対象として使われているのは、(A)のパターンとなる。少しバリエーションはあるが、お客が注文をした後に店員が「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」という表現を含むものを典型とする。この表現に

* 原稿受付 令和4年10月13日

** 佐世保工業高等専門学校 基幹教育科

関しては「注文したのは今なのに、なぜ「タ」を使うのか」という客側が違和感を持つ表現として取り上げられることが多い。本稿では、注文後に店員が確認するこの「よろしかったでしょうか」の用法を(A)パターンとして扱う。

次に(B)パターンは、塩田(2002)が、「いきなり用法」と呼ぶ用法である。お店に入っていくなり店員が使う表現で、「禁煙席でよろしかったでしょうか」以外にも「店内でお召し上がりでよろしかったでしょうか」など、お客と店員が何も事前にやり取りをしていないのに、店員がいきなり使うパターンを本稿では(B)パターンとして扱う。

さらに(C)パターンであるが、これに関しては、首藤も上記の2つのパターンとは異質なものとして扱っていて、店員側の「〇〇はいいのかな」という含みがあると取られかねない「ワ」がついている表現のパターンである。ただし、たとえば、コンビニのレジで「割り箸はよろしかったでしょうか」と店員が使う場合の「〇ワよろしかった」は、秋月(2005)も述べているように、「客の要求を、店の側が推測して行うサービスの1つ」(p.131)のために丁寧に聞いている表現と見なすこともできるため、「ワ」がついているからといってすべてがこのパターンに落とし込めるかといったらそうではないことを補足しておく。

本稿では、「気になる」用法として、聞き手に違和感を持たれることがある、上記の(A)・(B)・(C)の用法を中心に考察を進めていく。

3. 違和感や批判について

飯間(2021)は、レストランの店員たちが「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」を使うことに対する批判がはじまったのは、1990年代末からであると述べている。梅津(2007)は、ファーストフード店などで使われる「店内でお召し上がりでよろしかったでしょうか」の「よろしかったでしょうか」は、本来、確認や念を押すときに使う表現であって、まだ店内で食べると言っていないのにいきなり聞かれると、おかしいと感じる人が多いようであると述べている。また、「注文を確認しているのは現在だから、過去形にする理由がない」というのも一般的な違和感だと言える。

実際に、2000年代最初の頃の言葉の使い方のマナーについての識者の一般的なコメントは、「よろしか

った」の多用は慎むべきであるという意見のものが多い。

秋葉(2006)は、ファミリーレストランなどで、店員が「ご注文は〇〇でよろしかったでしょうか」と受け答えする場面によく出くわすことに触れ、正しくは「ご注文は〇〇ですね」であり、「無用な過去形の表現と言える」(p.7)と述べている。

山岸(2007)は、レストランなどに入るなりいきなり「禁煙席でよろしかったでしょうか」という表現が多用されていることに触れ、「過去形にすることで丁寧さを出そうとしているようですが、場面に合わないワンパターンな使い方に違和感を覚える人が多いのです」(p.56)と述べている。

佐久間(2007)は、「〇〇です」に比べて「〇〇でした」と言うのと、会話のやり取りの場面から一步退いたような感じがするので、それが丁寧表現として受け取られている理由ではないかと述べ、ただ、「たどそだとしても、過去形が丁寧を表すという確固たる理由はないので、『よろしかった』でいいことにはならないのではないか」と述べ、「こうした言い方がマニュアル化していることが問題」と述べている(pp.163-178)。

米川(2006)は、「二十一世紀に入って、飲食店に働く若い店員の接客の言葉が気になってたまらない。その中で最も嫌いなのが『～でよろしかったでしょうか』だ。相手への丁寧、敬意のつもりで、接客敬語のひとつとして使用される『よろしかったでしょうか?』は、かえってよろしくない結果を招いている。やめてもらいたい。正しいかどうかと言えば正しくはない」(pp.66-67)とかなりの不快感を表明している。

また、現代のデジタル社会と結び付けて次のような論も展開されている。

野口(2009)は、「デジタル的というのは定式化を特徴とし、情を通わせる関係を避けようとする言語行動、一方のアナログ的言語行動はより情緒的で、体験や感覚に基づくもの」として、「ファーストフード店で『こちらでお召し上がりでよろしかったでしょうか』とたずねることなどは、デジタル的な言語行動の最たるものだ」と論じている(p.185)。

梶井(2010)は、コンピュータの画面を見ながら操作をしている人が、「よろしかったですか」をより頻繁に使う傾向があることに触れ、「すでにコンピュー

タの画面に出ている情報を確認するのに、コンピュータにはすでにこのように入力されていますが、このままでよろしいですか、というのは、なるほど自然な日本語になるのかもしれないと思うようになった」と述べ、「この人たちは、すでに誰かほかの人によってなされて完了されている事柄を、本人に確認する作業をしているだけなので、過去疑問形言葉の裏側には、直接客の相手をしているのではなく、背後にある機械がし終わった作業結果を、客に取り次ぐという感覚があるのではなかろうかと考える」(p.123)とまとめている。

4. 考察の意義について

2000年代、日本語がブームとなり、「よろしかったでしょうか」が話題に上りはじめた頃から、この表現は「間違った」ことばの使用であるとして、批判が向けられてきた。一方で、この表現を合理的に解釈すべく言語学的研究も盛んにおこなわれるようになったと言われている(宇都宮 2001、佐藤 2009、飯間 2021、堀尾 2022 など)。

ことばは常に変化しており、社会生活も変化しているから、社会生活の中で使われていることばも常に変化していくのは自然なことである。変な日本語として扱われる表現も、理由なく生まれ定着している訳ではないので、その存在の意味や理由を問うことは大事ではないかという議論も多い(奥村 2002、飯間 2021 など)。

「よろしかったでしょうか」については、一時流行してその後消えたということでもなさそうである。とすると、この表現の背景にあるものを探る試みは意義があるものと考えられる。

また、「よろしかったでしょうか」と時制を過去形にする言い方には、ちょうど英語で相手に依頼をする際、“Will/Can you ～?”と聞くより“Would/Could you ～?”とした方が丁寧な表現であるされることに通じる点があるのではないかと示唆している論もある(金水 1998、飯田 2002、塩田 2002、梶原 2005、井上 2007・2017 など)。

従って、英語との接点の可能性も含めて、「よろしかったでしょうか」について考察を行い、議論を展開したいと考える。

なお、「よろしかったでしょうか」を含む接待表現

に関してはいろいろな呼び名が充てられているが、基本的には原文のままの表現を使っている。

5. 起源について

5. 1 方言起源説について

塩田(2002)は、塩田が「いきなり用法」と呼ぶ「よろしかったでしょうか」という表現が、ファーストフード店・ファミリーレストラン・コンビニエンスストアで店員によって使われることが多いことから、「ファミ・コン方言」として、その発生の背景として、「方言起源説」を提唱している。

NHK放送文化研究所放送研究部は、2001年12月、全国で満20歳以上の男女2,000人を対象にして、「よろしかったでしょうか」という表現の使い方について、どういう意味で受け取られているか調査を行った。その結果を、塩田(2002)がまとめている。調査時の質問は具体的には以下のものである。なお、塩田が行ったアンケートで使われた「よろしかったでしょうか」は、先に分類した(B)のパターンとなる。

アンケートの質問内容は以下の通りである。

この場面での「よろしかったでしょうか」と「よろしいでしょうか」について、どのように感じますか。(中略)ファーストフード店でこれからの注文をするときに、店員が、「いらっしゃいませ。こちらでお召し上がりでよろしかったでしょうか。(下線部原文のまま)」

これに対して、「丁寧だ」との回答が12%、「何となく違う」との回答が22%、「変な言い方だ」との回答が44%で、違和感がある人が60%以上いたとのことである。また、そのデータを年代差で見ると、「丁寧だ」は高年齢層の方が多く回答していて、「聞いたことがある」と回答したのは若い世代の方が多かったとのことである。これは、若者のほうがファーストフード店やコンビニに行く機会が多いということとも関係しているのではないかとということと、この表現が以前はあまり一般的ではなかったことの証拠ともなる、と塩田は述べている。さらに、「聞いたことがある」を地域別に見た結果では、地域による違いははっきり現れていて、北海道で特に多く(67人中42人、63%)、東海地方の愛知県でも多くなっている(84人中54人、64%)、「よろしかったでしょうか」を「聞いたことがある」とする人が多かった北海道・東海地

方では、この表現を「『よろしいでしょうか』と同じ意味だ」とする回答が多く、塩田は、北海道・東海地方を「多用地域」と呼んでいる。

北海道で発生した理由については、北海道方言の発生に関与したとして東北方言も視野に含めて述べている。東北地方の方言一般で「～している」という表現が「していた」と表現されるという現象や、挨拶ことばで「おぼんでした」「おはようございました」「もしもし塩田でした」のように「タ」を用いる地域が多いことから、「よろしかったですか」においても「タ」が用いられるようになったと推測している。以上のようなことから、「この言い回しが『北海道・愛知起源』である可能性をも示唆する結果となっている」と方言起源説を発生の可能性の1つとして述べている (pp.76-77)。

南 (2009) も、「(東北地方の一部も含めて) 北海道では、前提のあるなしにかかわらず『タ』形を用いることで、丁寧もしくは婉曲的な表現にしている」

(p.165) と述べ、真田 (2002) も、北海道や東北の方言では現在のことを表すときに「過去形」を使うことがあるとして、「おぼんでした」「おぼんでございました」などの例を挙げている。この方が「おぼんです」「おぼんでございます」よりも丁寧になるとのことだと述べている (p.184)。

梶原 (2005) も、「よろしかったですか」の起源に関して、北海道では日常的に共通語では現在形で言うような場面でも過去形というケースがあることと、実際に自分が北海道で(領収書の宛名は)上様でよろしかったですか」と北海道のデパートで店員に言われた経験に基づき、北海道起源説が有力であるとしている (p.103)。

宮田 (2009) も、塩田の方言起源説に言及して、北海道などでは「おはようございました」「〇〇さんいたか? (=〇〇さんいますか)」のように、現在のことに「タ」が使われることを挙げている。

以上のように方言起源説に言及している論は多い。

5. 2 方言起源説だけでは説明できないという論

飯間 (2021) も、塩田の方言起源説に言及している。東北・北海道では、「社長いる?」の意味で「社長いた?」と過去形を使うが、この「いた」は「確かにいる」という意味で使われているとしている。また、愛

知の方言にも似たところがあり、店員が「よかったですか」と聞くのが名古屋の喫茶店の特徴であることが1990年代の書籍に見られるとし、これも丁寧に確認しているのであろう、としている。しかし、飯間は、「タ」を使うのは、方言だけではなく共通語でも、「あしたは土曜日だった?」と、未来のことに「タ」を使うため、「自分が誤解していないかどうか、相手に確認したいとき、この形を使う」(p.175)としている。

井上 (2007・2017) も、「よろしかった」という表現は、北海道や東海地方でよく使われるということがわかった、という塩田の調査報告を紹介し、方言起源説があることを述べている。しかし、井上は、東海地方で使われることに関しては方言起源説では説明できないとしている。

さらに、梅津 (2005) も、どうして「よろしかったですか」という言い方が広まったかに関する諸説の中に、方言起源説があることを説明している。梅津自身が北海道の室蘭に赴任した際、電話でいきなり「おはようございました」と言われた経験があると述べている。また、北海道や東北の一部では、電話に出るときに「梅津です」ではなく「梅津でした」と言ったりすると述べていて、これらの地方では「よろしいでしょうか」と同じ意味で「よろしかったですか」を使うことがわかっているとしている。しかし、梅津も「しかし、方言が全国のファーストフード店に広がったとは考えにくく、ファーストフード店担当者が『よろしかったですか』という表現を、どこかで聞き覚えたか、あるいはこういう表現がありうると考えついたかのどちらかではないか」と述べている。「違和感を感じる人が多いのは事実であるが、今までなかったことば遣いだから間違っている、とは一概には言えないと思う」と述べている (p.62)。

5. 3 接客マニュアル起源説について

秋月 (2005) は、「よろしかったですか」という表現の誕生には、日本における商売状況が深く関係していると論じている。秋月は、この「よろしかったですか」という表現が、ファミリーレストラン、ファーストフード店、大型電気店など、全国チェーン店で使われることが多いことに着目し、接客の訓練や経験が十分でないアルバイトやパート店員が使うように指導されて使われ始めた、サービスを提供する側

の接客フレーズの1つとして生まれたのではないだろうか (p.133)、と述べている。

梶原 (2005) は、「主婦は別として、社会経験がほとんどない、ため口しかきいたことが無い若者を短期間で接客の舞台にデビューさせるために『接客マニュアル』は必須のものです」と述べ、コンビニエンスストアやファミリーレストランなどで働くアルバイトの若者に、接客ではその場にふさわしい語を使えと言われても無理だとして、「マニュアル敬語」が登場したと述べている。「マニュアル敬語」は敬語に不慣れた若者たちが接客場面で、主として丁寧さを表現したいという目的で使っていて、その「マニュアル敬語」の代表的な例が「よろしかったですか」であるとしている (p.97)。

吉岡 (2002) は、実際に、あるファーストフードの会社に確認したところ、その会社では、各店の店長がアルバイトの店員に、客の注文をしっかりと確認するよう指導し、「〇〇で、よろしかったですか？」という接客表現を口伝で教えているということだった、と述べている (p.6)。

井上 (2007) は、「マニュアル敬語」は、背景として、若い人たちが、家庭・学校・職場で敬語を使うことをちゃんと身に付けていないことがあり、アルバイト先で敬語を使いこなせないため、職場でサバイバルのため簡略化した決まりきった表現として定着したのではないかと述べている (p.179)。

NIKKEI STYLE の 2015 年 2 月 4 日版³⁾によるとファミリーレストランとコンビニの店舗数は 1990 年代に急増したようで、これは、新聞紙上や言葉に関する一般向けの書籍で、「よろしかったですか」などの表現が批判されるようになった時期と重なっているようである。

従って、接客マニュアルが起源であるとまでは言えないが、接客表現の「よろしかったですか」が全国に広まっていったことと接客マニュアルは関係がありそうである。

6. アンケート

塩田 (2002) の調査を受けて、同じようなアンケートがいくつか実施されているので、それらについて触れてみたい。

秋月 (2005) は、2003 年から 2004 年にかけて、

勤務する大学の短大・大学生 143 名に、「よろしかったですか」という表現に対する意識調査を行っている。秋月の行ったアンケートは、単に「よろしかったですか」に関してなので、(A)・(B)・(C)のどのパターンにも分類ができない。アンケートの結果としては、「よろしかったですか」という表現に対して、46.1%が「気になる」と回答したとのことである。学生の中には、ファミリーレストランやファーストフード店などでアルバイトをしているものもいるはずであることから、「アルバイト先では『よろしかったですか』という表現を使いながらも、心の中では、この表現に違和感を抱いている者が少なからずいる可能性が高い」と述べている (p.122)。

洞澤・岡 (2006) は、「バイト敬語」について、その使い手(話し手)である若者たちの心理について論考するために、2004 年 10 月及び 2005 年 11 月の 2 回にわたって岐阜大学の学生 254 名に対して、アンケート調査を行っている。調査対象の 7 割の学生は接客業のアルバイトの経験があったとのことである。調査対象の「バイト敬語」は、(1)「お飲み物のほうはいかがですか?」(2)「ご注文は以上でよろしかったですか?」(3)「こちらコーヒーになります。」(4)「1,000 円からお預かりします。」の 4 つで、使用頻度が高い順に、(1)「お飲み物のほうはいかがですか?」、(3)「こちらコーヒーになります。」、(2)「ご注文は以上でよろしかったですか?」、(4)「1,000 円からお預かりします。」だったとのことである。(下線部原文のまま)、「ご注文は以上でよろしかったですか」については、「使用する」と回答した者が 53.9%、「使用しない」と回答したものが 46.1%だったとのことである。調査の結果より、「非常に多くの場合、話し手である若者たちは明確な理由または意図を持って『バイト敬語』を使用しているわけではないことが明らかになった」(p.31)、としている。洞澤・岡の行った「よろしかったですか」のアンケートの結果は、「ご注文は以上でよろしかったですか」についてなので、(A)のパターンとなる。

西川 (2005) は、「ご注文は以上でよろしかったですか」の「よろしかったですか」を、『現代用語の基礎知識 2004』をもとに「新丁寧語」と呼び、2003 年に勤務校の学生 54 名に対して、「ご注文は以上でよろしかった」などの「新丁寧語」と呼ばれる

5つの表現（「こちら～になります」「～円からお預かりいたします」「おタバコの方、お吸いになられますか」「〇〇様でございますね」「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」）について、使ったことがある、または聞いたことがあるという学生数について調査を行っている。「ご注文は以上でよろしかった」という表現を聞いたことがある学生は47名（87%）、使ったことがあるという学生は33名（61%）であったと述べている。西川のアンケートは、(A)のパターンの表現に関して行われている。

岩崎・久野（2011）は、NHK放送文化研究所放送研究部が2001年に行った「よろしかったでしょうか」の使用の実態を把握するために、2009年の10月から12月にかけて、東京都・神奈川県のレストラン・小売業・サービス業を対象として、接客をする側の店員と接客を受ける側の客に調査を行っている。調査店舗数は53店舗、調査対象者は90人となっている（接客する側と接客を受けた側の各人数は不明）。調査の結果、「よろしかったでしょうか」の使用については、世代比に大きな差はなく、塩田（2002）の分析とは違う結果が出たことが報告されている。異なる結果が出た原因の1つとして、「観察時期は塩田（2002）の調査から7年経過した2009年であり、ことばの流動性により、より幅広い世代に用いられるようになったと考えられる」としている。実際にアルバイト経験がある10名の学生にインタビューを行った結果、「よろしかったでしょうか」については、「自然と使っていた」「無意識に使っていた」という回答や、表現のイメージとしては「丁寧だ」「リズムが良い」との回答があったとのことである。秋月の行ったアンケートも、単に「よろしかった」に関してなので、(A)・(B)・(C)のどのパターンにも分類ができないものである。

阿部（2011）は、2010年12月に愛知県内の大学生84名に対して、「よろしかったでしょうか」について、アンケートを実施している。ファミリーレストランで店員が「ご注文は以上で……」と尋ねてきたという設定で、「……」の部分の表現を5種類提示し、自然だと思う順位をつけてもらう調査を行っている。店員が発する表現は「a. いいですか」「b. よいですか」「c. よかったですか」「d. よろしいですか」「e. よろしかったですか」の5種類だったとのことである。

自然さについては、以下のような結果になったということで、d.「よろしいですか」が一番自然だと思われるという結果が出たとのことである。

自然さ：よい・いい < よかった < よろしかった < よろしい

阿部のアンケートも、(A)のパターンの表現に関して行われている。

古保（2019）は、2018年10月から2019年1月にわたって石川県金沢市でアルバイト経験がある生徒・学生（15歳から25歳）62名（男性20人、女性42人）に対し、4つの表現に対する違和感の有無を調査している。4つの表現とは、「こちらお飲み物になります」「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」「メニューの方お持ちいたしました」「1000円からお預かりします」の4つの「バイト敬語」である。回答者の7割以上のアルバイト先が飲食業であり、全体の9割以上が敬語での接客経験があった。

「バイト敬語」については、若者も違和感を覚えている人が多いが、「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」は違和感が少ない表現であった、ということと、「バイト敬語」は、アルバイト先でよく使われる表現を模倣することから広がっていることがわかった、としている。古保のアンケートも、(A)のパターンの表現に関して行われている。

以上のアンケートの結果をまとめると、「よろしかったでしょうか」は、アルバイト先の場面で実際に使ったり聞いたりする若者は多く、また違和感も感じていたようである。この表現は、模倣をして広がったのではないと思われるが、時間とともに世代には関係なく使われるようになってきていて、以前ほど違和感を感じられない表現となっているようである。実際に、2021年の著述である飯間の論にも、「気のせい、一時期に比べて『よろしかったでしょうか』に対する批判が聞かれなくなりました」とあり、この表現が定着し、自然に受け取る人が多くなってきているのかもしれない。

7. 「よろしかったでしょうか」に対する諸説

「よろしかったでしょうか」に関しては、さまざまな論が展開されているが、(A)・(B)・(C)のパターンに分けて諸説を整理してみたい。

7. 1 (A) のパターン（「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」）についての説

7. 1. 1 吉岡（2002）と飯間（2021）の説

本稿で(A)パターンとしている「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」の「タ」については、確認の意味であるという論述が多く、吉岡（2002）と飯間（2021）も次のように「確認」で説明をしている。

吉岡（2002）は、「よろしかった」の「タ」は、過去の意味だけでなく、確認の意味で使われることもあり、店員が注文を復唱する場面で使われている「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」については、確認の意味ではないかと述べている。「よろしかったでしょうか？」は、客に確認を求める丁寧表現で、それに対して「よろしいでしょうか？」は、客に許可を仰ぐ丁寧表現という違いがあると指摘している。

飯間（2021）は、「タ」を確認の意味に使うのは、「あしたは土曜日だった？」と未来のことに対しても、自分が誤解していないかどうか、相手に確認したいとき、この「タ」使うことなどから、「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」も、自分に誤解があって失礼していませんか、と確認するために使っているとしている。

7. 1. 2 北原（2004・2005）の説

北原（2004・2005）は、全国から寄せられた「気になる日本語」について、「使ってはいけない」「この用法は間違っている」と指摘するだけでなく、どうしてそういう表現が生まれるのかについて解説を行っている。「気になる日本語」の1つとして「ご注文は以上でよろしかったでしょうか？」の使い方が取り上げられている。

北原（2004）では、「よい」は現在のことについての現在の評価を表わし、「注文はこれでよい」は、現在注文をしているその注文の内容はこれでよい、ということになるが、「よかった」は、過去のことについての現在の評価を表わしていると説明をしている。「よい」と「よかった」は、評価の対象は現在のことと過去のことと違うが、評価の時点はいずれも現在で共通だとしている。

また、北原は、注文と確認が一連の流れの中で行われているのだから「過去の注文」ではなく、「今の注

文」と感じられるため、やはり現在形の「よい」で確認すべきではないか、という意見があったことに触れている。これに対し、一連の流れの中でも「タ」が使われることを、「待ってよかった」「間に合ってよかった」「彼が来なくてよかった」という例を挙げ、これらの表現は、直前までの結果を受けて現時点での感想を述べていることになり、一連の流れで「タ」が使われることはありうる、と説明をしている。

さらに、「タ」は、「知っていることを相手に確認する用法」があるが、これに「でしょうか」が加わると、「でしょうか」は、自分が知らないことについて相手に質問をする表現だと考えられるため、「タ」と「でしょうか」を組み合わせて「よろしかったでしょうか」は違和感が出てくるであろう、とまとめている。

7. 1. 3 奥秋（2007a・2007b・2011）の説

奥秋（2007a・2007b・2011）は、「ご注文の品は、以上でよろしかったでしょうか」の「タ」について、一見過去形で聞いているのは、先に注文を受けた時の内容を思い浮かべつつ、目前に提供した料理との差異がないかを、客に確かめるための“確認形”であると述べている。過去の動作や状態が、現在の動作や状態とつながりを持っていることを表す現在完了を用いて確認をしている用法であると述べている。

「ご注文の品は、以上でよろしいでしょうか」と「タ」を使わない表現は、機械的な聞き方になってしまい、〈以上でよいかよくないか、はいそれまで〉という感覚になってしまうのに対して、「よろしかったでしょうか」と言うと、注文時の客の立場や気持ちに思いを寄せるぬくもりのある言い方になり、応対用語としてよりふさわしいと述べている。

7. 1. 4 竹林の説（2011）

竹林（2011）は、店員が、客の注文を受けて、注文内容を復唱した後に、ご注文は以上でよろしいでしょうかではなくて、「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」と言うことがあることに触れ、「なぜ、『よろしかったでしょうか』と『タ』を付けるのか、と違和感を抱く人がいる」と述べている。

竹林は、「タ」が付くことが不自然に感じられるのは、「注文が以上でよいか」と今確認しているのだから、「タ」を使うのは変だ、という考え方で、「タ」

は過去のことを言うときに使われる言葉だという思い込みがあるからだろう、と解説をしている。

しかし、「タ」は、過去のことを言うときだけに使われるわけではなく、バスが向こうに見えたとき、「あっ、バスが来た」と言うことがあり、これは今（発話時）のことである、と説明をしている。叩き売りで聞く「さあ、買った！買った！」という表現も、丁寧な言い方にすれば「買ってください」となるが、「タ」を使って過去のことを表しているわけではない、と述べている。これらの例の「タ」の使い方から、「タ」は過去を表すから、「ご注文は以上でよろしかったですか」という言い方は誤りだ、とは言えなくなると論じている。

竹林も、「ご注文は以上でよろしかったですか」の「タ」は、「確認」を表す「タ」であるとして、「明日の会議は何時からだったっけ」は、すでに決まっている会議開始時刻を確認する言葉であるし、（人の名前を忘れて）「失礼ですが、お名前、何とおっしゃいましたかね」も、相手の名前を確認する表現であると述べている。確認という行為は、既定の事項を確かめることで、上記の例で言うと、会議の開始時刻・相手の名前は、すでに決まっていることになる。同じように、注文内容もすでに定まっていることを、「ご注文は以上でよろしかったですか」と、既定の注文内容を「タ」で確認しているわけであると述べている。

7. 1. 5 森山の説 (2009) の説

森山 (2009) も、「過去を表さない日本語の『過去形』」として、ファミリーレストランの注文取りの場面などで「ご注文はお決まりでしたでしょうか」「以上でよろしかったですか」などと、アルバイトらしいウェイター、ウェイトレスが「タ」を使うことがあることについて解説を加えている。こういう「タ」の多用に対しては批判的な見方をする人もあるようだが、「お決まりでしょうか」といまのことを直接話題にするよりも、すでに決まったことを教えてもらうという言い方の方がおしつけがましくなく、という意識があるためや、すでに教えてもらっていたのかもしれないけど、という含みがあるのだろう、と述べている。しかし、だからこそ、あくまで今のこととして捉えているお客の場合、違和感を感じるかもしれないと述べている。

7. 2 (B)のパターン（「禁煙席でよろしかったですか」等）についての説

7. 2. 1 井上 (2007・2017) の説

井上 (2004・2007) は、ファミリーレストランなどで、入ってすぐに「禁煙席でよろしかったですか」といきなり聞かれることについては、事前に客の意向を何も聞いてもいないことについての問いであるため抵抗を覚えるだろう、としている。このような「禁煙席でよろしかったですか」のような用法は、ファミリーレストランなどで注文を取った後に接客担当が確認する「ご注文は以上でよろしかったですか」と「よろしかった」と使うのを全体に適用しているのではないかという説があることを紹介している。

7. 2. 2 梅津の説 (2005・2007)

梅津 (2005・2007) は、ファーストフード店などで使われる「店内でお召し上がりでよろしかったですか」の「よろしかったですか」は、本来、確認や念を押すときに使う表現であって、まだ店内で食べると言っていないのにいきなり聞かれると、おかしいと感じる人が多いようであると述べている。

なぜ、「よろしかったですか」が使われるようになったかの一説として、会話の省略があると考えられる、と述べている。「よろしいでしょうか」より比較的念を押すニュアンスが強い「よろしかったですか」の方が、相手に選択の余地を与えず、やり取りの時間が少なく済む。店員の対応が早く済めば、それだけ店の回転を早くできるから、という説があることを紹介していて、他の論とは「よろしかった」について違う解釈を述べている。

7. 3 (A)のパターン・(B)のパターンをまとめて説明しているもの（「ご注文は以上でよろしかったですか」「禁煙席でよろしかったですか」等の表現）についての説

7. 3. 1 加藤 (2002) の説

加藤 (2002) は、飲食店などで「ご注文は以上でよろしかったですか」のように、タ形を使う用法については、「よろしいですか」という言い方が「確認を事

務的に行うような冷淡できつい言い方に聞こえる」という判断があり、この冷淡できつい感じを緩和するために「よろしかったですか」のような「タ」形を利用すると説明できるとしている。

また、ホテルに泊まることになっていて予約をしている場合は、フロントで使われる「ご一泊でよろしかったでしょうか」は、すでに承った予約について確認を行うための表現であるが、これに対して予約なしでホテルに行って宿泊の希望を伝えた際、「ご一泊でよろしいでしょうか」ではなく「ご一泊でよろしかったでしょうか」という表現が使われるのは、「いわばすでにホテル側は客として認知しており、そういう配慮を持って接しているというニュアンス」を伝えるためではないかと述べている。

タ形を使うことによって、過去に得た知識と照合しているわけではないが、客に対する配慮が示せる（また、それによって丁寧度が上がる）と判断していることによって、このような「よろしかったでしょうか」の言い方が一般化したとみることもできるであろう、と述べている。

7. 3. 2 宮田 (2009) の説

宮田 (2009) は、

- a. ご注文はよろしかったでしょうか？
- b. ご注文はよろしいでしょうか？

の2つの表現について、「レストランで注文をとってテーブルを離れていった店員が、その後注文があやふやになってしまったために、再度客のもとに来て確認する」場合には、a.が適当で、b.は不適當だと解説する。これに対して、「レストランで店員に注文を告げて、店員は確認のためにメモした内容を読み上げる」場合には、b.のように言うべきだろう、と客は感じるであろう、とする。それは、客がいったん「記憶の格納庫にしまった事柄」（過去になった事柄）を改めて取り出す、ということはないはずだから、と説明する。ただし、北原 (2004) の論を元に、「現在の注文ではあるけれども、し終わった注文を過去と見なされれば、『ご注文はよろしかったでしょうか』も許されるかもしれない」とも述べている (p.60)。

また、コンビニエンスストアで弁当を買った時に、店員が「お箸はよろしかったでしょうか」の表現を使うことに関しては、会ったばかりの客と店員の間に

「過去」が介在する余地はまったくないので違和感を覚える人は多いであろう、と分析している。

上記の2つの場面の例のような、必ずしも過去のことを思い出す必要のない状況で、なぜ「よろしかったでしょうか」と「タ」が使われることに関しては、塩田 (2002) の方言起源説に言及して、北海道などでは「おはようございました」「〇〇さんいたか？ (= 〇〇さんいますか)」のように、現在のことに「タ」が使われることを挙げている。

加えて、通常の会話でも、必ずしも過去のことでないのに、「どなたですか？」ではなく、「どなたでしたか？」と「タ」を使うことがあることに触れ、これについては、森田 (2006) の論を使って説明をしている。森田は、見覚えのない人から声を掛けられた時に「どなたでしたでしょうか」と「タ」を付けて反応することについて、「『タ』を付けることによって、あなたは初めて会う未知の人物ではない。既知の間柄でお名前も承知しているはずなのだが、あいにく失念してすぐには出てこない、といった相手を立てるニュアンスが生まれてくる」(p.4) と分析している。

こういった「タ」の使い方が、「よろしかったでしょうか」の普及を後押ししたとも考えられる、と宮田は論じている。しかし、こうした店員の意図が常に客に正しく伝わっているとは限らず、会う前からお客のことを考えていた、というホスピタリティの精神と客側が受け取ってくればいいが、店員側があらかじめ勝手に決めた接客の流れを押しつけられていると解釈して、不快に思う客もいるかもしれないので、どんな状況でも「よろしかったでしょうか」と使えばよいというような機械的な対応は、逆効果を招く危険がある、とまとめている。

7. 4 Bのパターン・Cのパターンをまとめて説明しているもの（「禁煙席でよろしかったでしょうか」等と「フライドポテトはよろしかったでしょうか」等の表現）についての説

梶原 (2005) も、「よろしかった」について他の論とは違う解釈を述べている。梶原は、「よろしいでしょうか」という問いかけには、客に判断を求める謙虚さが残っているが、「よろしかったでしょうか」では「すでに判断が店側で済ませてあり、客にその承認をもとめるだけという傲慢さが感じられる」としている。

「(ファーストフード店で) 店内でお召し上がりでよろしかったでしょうか?」という言い方には、「外で食べたいなんてめんどうなことは言わないでおとなしく言われたとおり店内で食べなさい。そのほうが手間が省けるのだから」という店員の「早く済ませたい」という都合優先的態度が窺え、「(ハンバーガーだけを注文した客に対しての)ポテトはよろしかったでしょうか?」は、「この店では普通、ポテトと一緒に注文するものなのよ」という常識提示の押しつけがましさが感じられて好感度は低い表現だと考えた方がよいとしている。

7. 5 その他の説

鳥光 (2011) は、「～でよろしかったでしょうか?」の「タ」を古文の視点から分析している。本来日本語には「き・けり・つ・ぬ・たり・り」という助動詞が存在し、「過去・完了・気付き・詠嘆・存続」などといったバラエティに富む意味をそれぞれが持っていたが、奈良時代に「たり」のみが使われるようになり、江戸時代には「たり」の「り」が離脱し、現在使われている「タ」となっていると述べている。従って、現在使われている「タ」は、もともとの「き」「けり」「つ」「ぬ」「たり」「り」の名残りを残しながら、それらのすべての意味を背負っている、としている。

例えば、「あれ、閉まっているなあ。そういえば、今日はこの店は休みだったっけ?」の中の、「け」は古文の「けり」の名残りで見なすことができ、この時の「け」については、店が休みであったことを前から知っていたはずなのに、つい忘れてしまっていて、「今気付いた」という意味であるとしている。自分が正しいと思いながらも、多少曖昧に思っていることを、少々遠まわしに相手に確認し、正しいか否かの裁定に当たってもらおうといった、「婉曲」を含んだ「確認・気付き」であると分析している。

「～でよろしかったでしょうか?」の「タ」については、複数の意味が内在する「タ」の中で、少なくとも目の前に相手がいって、しかも今現在のやり取りの中で確認しているのだから、「過去」の意味として言っているのではなく、古文で使われていた「けり」が残してくれた「確認・気付き」と言えるのではないだろうかと述べている。「～でよろしいでしょうか」ではなく「～でよろしかったでしょうか」と、「タ」を挟

み込むことによって、相手に「確認・気付き」をしてもらいながら「婉曲的」に言おうとする気持ちがもともとはいつているのではないか、それが、「よく分からないけど皆がそういうから自分もそう言おう」という人々が増えてしまい、そのまま伝播していった表現であったと言えないだろうか、と分析をしている。

国広 (1967) も、タ形には、「過去から現在にわたって当てはまる事柄を話者あるいは相手自身は承知していることを暗示しながら、相手に確認を求める」(p.66) 意味・用法があるとしている。

以上のように、「よろしかったでしょうか」については、実にさまざまな論が展開されていることがわかる。多くの論で、「よろしかったでしょうか」という表現は、違和感がある一方で、「よろしいでしょうか」よりも婉曲的になり、丁寧な確認の意図で使われていると述べられていることもわかった。

8. 「タ」についての考察

これまで見て来たように「よろしかったでしょうか」の「タ」に関してはかなりの議論が展開されてきているが、実は、「タ」一般についても、いままで長年に亘って膨大な研究がなされてきていて、さまざまな見解があることを多くの研究者が述べている(樋口 2001、曹 2003、定延 2004)。例えば、曹 (2003) は、「過去・完了形式としての『タ』形式については、これまで膨大な研究が行われてきている。それらの研究には、テンス・アスペクト・ムードなどに関する一般的な文法範疇のものや、話者の心的状態の反映による多義的なものなど、多種多用なものが含まれる。そして、テンス・アスペクトで説明しきない部分をムードで説明したり、多義的なものとして扱ったりしている」(p.63) と述べている。

ここでは、「よろしかったでしょうか」の「タ」に絞って、まずは、文法・意味機能の観点から検討してみたい。

劉 (2011) は、「よろしかったでしょうか」について、「タ」における「完了」という文法機能に注目し、次の例を使って説明を行っている (p.26)。

[レジにて] 店員「一万円札からでよろしかったでしょうか?」

この場合の「よろしかったでしょうか」については、「よろしいでしょうか」よりも確認表現を和らげよう

する店員側の心理が働き、『相手の立場を考慮する』という解釈が成り立つ」と述べている。一方、この場合の「よろしかったでしょうか」は、店員側の「そのようにお見受けしましたという判断を伴っており、完了した状態を前提に話を進めれば、客に極力否定的な返事を言わせないという意図的な使用」であり「自分の都合を優先する」用法という解釈も成り立つとも説明している。

しかし、劉は、「一つの事柄に相反する解釈が含まれるのは一見矛盾しているようにも見えるが、根本には完了状態を表す『タ』の意味・文法機能がある」と論じている。ただし、完了状態を表す「タ」と丁寧さとの関連には言及がないようである。

これに対して、渡邊(2007)は、「よろしかったでしょうか」の「タ」は、「未完了の過去性」を持った「タ」であると論じていて、「タ」に前接している述語が形容詞、もしくは状態を表す動詞の場合は、「過去形といえども未完了アスペクトを示しているものであり、あくまでも、現在にも延長されうるような過去なのである」と述べている(p.57)。さらに渡邊(2006)は、「現在にも延長している過去」の用法が、「注意の持続」や、疑問文で使われることによって「確認的質問の入念さ」に繋がり、その結果に「丁寧さ」が生み出されていると論じている(p.74)。

このような「タ」の用法については、寺村(1971)や金水(2001)も言及しており、寺村(1971)は、「日本語の形容詞、名詞プラス‘タ’の‘過去形’が、現在における話し手の判断を包み込んだもの⁴⁾と論じ(p.258)、金水(2001)は、「日本語では、何らかの理由で現在の状況と関連のある過去の一時点が焦点化された場合、現在の状況がその過去の時点から存在していたかのように述べることができる。これが状態性の述語にしか許されないのは、『現在の状況』として把握できる事態、すなわち発話時点において真偽が決定できる事態が、状態性の事態しかないから」(p.58)と論じている。

渡邊の論を基に「タ」について考察してみると、「タ」には、過去性(非現在性)があり、また、形容詞プラス「タ」で状態を表わして、「現在にも延長している過去」の用法であるため、「注意の持続」の意味合いがあることになる。また、疑問文で使われることによってそれが「確認的質問の入念さ」に繋がり、そ

の結果「丁寧さ」が生み出されていると言える。従って、「よろしかったでしょうか」の「タ」には多くの論述に見られるように丁寧さはあると言えそうである。

しかしながら、入店直後に「いらっしゃいませこんにちは。店内でよろしかったでしょうか」など店員が発言する場合の「タ」には、過去のことであるという時間的關係が成立しないのではないかと、という疑問が生じる。これに対して、渡邊(2007)は、「予備的判断の擬制」という用語を使って、「発話時点にはじめて注意を振り向けるような場合であっても、あたかも予備的判断が行われていたかのように擬制するために、『よろしかったでしょうか』と言っているのではなかろうか。現実の時間的關係に反してまで、そういった擬制を行なうのは、注意の持続が丁寧であるという手段として『店内でよろしかったでしょうか』という表現に訴えていると考えられる」という論を展開している(p.58)。

9. 英語の過去形について

ここから、しばらく英語の過去形について考察をおこなってみたい。

9. 1 共通した理論

ここで、英語の過去形について検討してみたい。英語の過去形は、一般に、過去の事柄や事実を述べている場合に加えて、「控えめさ」や「丁寧さ」を出すために使われる場合がある。関係する多くの論を参照してみたい。例文の番号は、通し番号で、原文で使われている番号とは異なっている。

例えば、Swan(2016)は、

1. How much **did** you **want** to spend, sir?
2. How many days **did** you **intend** to stay?
3. I **wondered** if you **were** free this evening.

などの例文を使って(太字は原文のまま)、

“We can make requests (and also questions, suggestions and statements) less direct (and so more polite) by using verb forms that suggest ‘distance’ from the immediate present reality. Past tenses are often used to do this.” (p.46)

と説明し、過去形を使うことによって、「控えめ」になったり「丁寧」になって、現実との距離(「非現在

性)) が出ると説明をしている。

同様に Leech (2004) も、“The effect of the Past Tense is to make the request indirect, and therefore more polite.” (p.15) と、過去形を使うことによって、「控えめ」になり、それゆえ、「丁寧」になると説明をしている。

Quirk, et al. (1985) は、“the attitudinal past” という用語を使い、“mental state” (心的状態) などにも言及し、話し手の“tentativeness” 「控えめさ」が「丁寧さ」に繋がることを 2 つの例文を使って次のように述べている (斜字体は原文のまま)。

The Attitudinal past, used with verbs expressing volition or mental state, reflects the tentative attitude of the speaker, rather than past time. In the following pairs, both the present and past tenses refer to a present state of mind, but the latter is somewhat more polite (p.188) :

3. Do/ *Did* you want to see me now?

4. I wonder/ *wondered* if you could help us.

Biber et al. (1999, 2002) も、“stance” (心的態度) という用語を使い、同様に、“tentativeness” 「控えめさ」が「丁寧さ」に繋がることを 2 つの例文を使って次のように述べている (2002, p.151) (太字は原文のまま)。

5. **Did** you want a cup of tea?

6. I just **wanted** to thank you guys for allowing me to tape-record you.

In addition, simple past tense is sometimes used for a situation at the present time. In this case, the past tense gives information about **stance**. It is usually used with verbs like *think*, *wonder*, and *want*. The clause refers to a current state of mind, but the past tense conveys tentativeness and show that the speaker is being polite.

また、Taylor (2003) は、語用論の観点も踏まえて、“a pragmatic softener” という用語を使い、過去形が持つ用法を次の 6 つの例文を使って以下のように説明をしている (p.178)。

7. Excuse me, I want to ask you something.

8. Excuse me, I wanted to ask you something.

9. Can you help me?

10. Could you help me?

11. Will you help me?

12. Would you help me?

The past tense, however, has at least two other very important meanings (or constellations of meanings) in English. These have nothing to do with past time, or with narrativity. Firstly, the past tense indicates the unreality (or counterfactuality) of an event or state. Secondly, the past tense can function as a kind of pragmatic softener. 中略

The other use of the past tense that I want to consider is also restricted to a small number of contexts. This is the use of the past tense as a pragmatic softener. By choosing the past tense, a speaker can as it were cushion the effect an utterance might have on the addressee. Thus, (8) is a more tactful way of intruding on a person's privacy than (7).

The softening function of the past tense has been conventionalized in the meanings of the past tense models in English. The sentences (10) and (12) are felt to be less direct than (9) and (11).

また、Taylor は、このような用法は他の言語にもあるとして、“It is significant that a similar constellation of meanings is found in other languages, too.” と述べ、イタリア語の例を出している。

久野・高見 (2013) も、現在形と過去形の両方が用いられ、過去形が過去の事柄を表わしていない場合について次のような 2 つずつのセットの例文を使って、(12-15)の太字の動詞は、現在形でも過去形でも、日本語訳に示したように、現在の事柄を述べており、ほぼ同じ意味を表しているが、過去形の方が現在形より丁寧な意味合いが含まれていると説明をしている (p.162) (太字と日本語訳は原文のまま)。

12. Sorry, what **is** / **was** your name again?

「すみません、もう一度お名前を教えてくださいませんか」

13. I **want** / **wanted** to talk to you this afternoon.

「午後あなたとお話ししたいのですが」

14. How much **do / did** you intend to spend on your tie, sir?

「ネクタイにどれくらいお金をおかけになるおつもりですか」

15. I **wonder / wondered** if you **can / could** give me some advice on my paper.

「私の論文に関していくつかご助言を頂けないでしょうか」

なぜ、(12-15) では過去形が使われているのに、現在の事柄を表わし、丁寧な表現になるのかについては、

話し手が自分の質問や意図、気持ちを過去形で示すことによって、それらが聞き手に対する現在の直接的なものではなく、現実から離れたより間接的なものであることを示すことができるためだと考えられます。つまり、話し手は過去形を用いることによって、現在や現実から距離を置き、自分の質問や意図、気持ちを間接的に、遠回しに表現することで、丁寧さが聞き手にも伝わるようになります。丁寧表現は一般に、直接的な言い方を避け、できるだけ間接的な言い方をするため、(12-15) のように時制を過去にずらして、自分の意図や気持ちを現在から距離をおいて表現するのも、この丁寧表現の要因である『間接性』を満たしているのだと考えられます。過去形が、現在から距離を置くことで、より間接的な表現となり、話し手の希望や思い、聞き手に対する質問などを直接的に述べるのを避けられるためです。

と説明している (p.163)。

大西 (2020) は、まず、命令文を使って議論をはじめ、命令文は自分の要求を直接 (そこから距離を取らず) 述べる、オブラートにくるんでいない「生」の表現であるとして、次の例文を挙げている (p.101) (日本語訳は原文のまま)。

16. Play the piano for us. 「ピアノを弾け」
これを、

17. Can / Will you play the piano for us?
「ピアノ弾いてくれない?」

18. Could / Would you play the piano for us?
「ピアノ弾いてくれませんか?」

とすると、助動詞が、本来の言い分、欲求から距離を

取る役目を果たしている、と述べている。過去形が丁寧表現に用いられるのは、would/could you ... ?などの助動詞を使った場合だけではなく、hope などの動詞を使う場合もあるとして、次の例文を挙げている (pp.102-103)。

19. I hope you can come with me.

20. I hoped you could come with me.

「おいでいただけるといいのですが」

助動詞を使うことや過去形を使うことには、どちらも「離れる」というイメージがあって、それが「ダブル」で使われているのが、(18)の Could/Would you ... ?なのだ、と説明をしている。

宗宮 (2007) は、「非現在性」という用語を使い (p.5)、

21. Would you lend me your car tomorrow?

のように、助動詞の法助動詞の「過去形」を用いて婉曲を表すこともできるし、I wanted のように、本来の時制が現在時制であるものを過去時制にすることで婉曲さを伝えることもできる、と述べ、「過去という時間の非現在性を利用した慣習」と論じている。

高橋 (2015) は、久野や大西が述べる「距離感」とは、相手からの心理的な距離であるとまとめ直している。その「距離感」が「丁寧さ」と関連していて、相手から距離的な隔たりをとることで、「控えめさ」や「気遣い」「配慮」「思いやり」などにつながり、この距離感が「間接性」と捉えられ丁寧表現として機能する、と論じている。つまりそのメカニズムにおいて丁寧表現とは、直接的な言い方を避け、間接的な言い方をするにより生まれ、その手法として、時制を現在形から過去形にずらす。こうすることで、話し手の意図や気持ちを現在や現実から距離を置くことができ、遠回しに相手に伝わることになる、と述べている。

大杉 (1982) は、「強調」の反意語として、「弱調」という用語を使い、「弱調的」表現を用いて「敬意」を表すことができるとして次の 2 つの例文を出している (p.22) (日本語訳は原文のまま)。

22. Is 10:30 in the morning all right? 「朝 10 時半でよろしいですか」

と聞くより、

23. Would 10:30 in the morning be all right?

「朝 10 時半でしたらよろしゅうございませうか」

と would を使って「弱調」すれば「敬意的」になると述べている。これは、接待用語的な日本語では、「朝10時半でよろしかったでしょうか」になるのではないかと考える。

以上のことから、時制を現在形から過去形にずらすことにより、心理的距離感ができ、その距離感が、「控えめさ」「気遣い」「配慮」「思いやり」などにつながり、「間接性」や「遠回しの表現」と捉えられ、丁寧表現として機能する、ということになる。

このような相手との距離感による「丁寧さ」は、「よろしかったでしょうか」の「タ」にも類似しているようである。

9. 2 Huddleston & Pullum (2002)の論

Huddleston & Pullum (2002)は、英語の過去形について、さらに踏み込んだ論を展開しているので、その論を見てみたい。

Huddleston & Pullum は、

24. I wanted to ask your advice.

25. I wondered whether I could see you for a few minutes.

という英文を使って (p.138)、次のように説明をしている。同書には、日本語訳の書籍があり、説明は、谷口他 (2021) の日本語訳を使用している (p.177)。Tr と Ta は、谷口他 (2021) によると Tr は「指示される時間」、Ta は「直示時間 (通常は発話時)」のことを指すとなっている (p.95)。

このような過去時制の慣用的な用法は、基本的な過去の意味と矛盾するものではない。(中略) 文脈が過去の特定の時点を指していない限り、Tr は直近の過去として通常解釈される。表されている状況が出来事ではなく状態の場合、過去形を用いても『その状態はもう続いていない』という含意をもつことにはならない。状態の終わりを示すものが何もないので、Ta の時点でもその状態は続いていることになり、上記の例文の場合は「助言が欲しい」「数分間会う時間が欲しい」という解釈になるのである。過去形を用いることにより丁寧さが上がるのは、今現在に直接言及せず、あまり直接的かつぶっきらぼうに思われぬように距離を置いているからである。

この Huddleston & Pullum の論は、前節で考察し

た渡邊 (2007) の「よろしかったでしょうか」の「タ」に関する「未完了の過去性」と類似しているように思える。すなわち、「タ」に前接している述語が形容詞、もしくは状態を表す動詞の場合は、「過去形といえども未完了アスペクトを示しているものであり、あくまでも、現在にも延長されうるような過去」であり、「現在にも延長している過去」の用法が、結果的に「丁寧さ」に繋がると論じていることと共通性があるように思える。

10. 語用論とポライトネスの観点から

「よろしかったでしょうか」を語用論やポライトネスの観点から論じているものもあるので、見てみたい。

まずは、ポライトネスに関して、宇佐美 (2001) の論述をまとめると以下ようになる。

10. 1 宇佐美 (2001) のポライトネスについてのまとめ

宇佐美 (2001) は、誤解されることも多いとして、Brown & Levinson (1978・1987) のポライトネスの捉え方を以下のようにまとめている。

「ポライトネス」は、「いく」「いらっしゃる」というような言語形式の丁寧度を扱う概念ではなく、「相手の気分を害さないように、コミュニケーションを楽しく、円滑に進めるための言語方略」と定義されるとしている。従って、日本語の「丁寧さ」という訳語は当てはまらないと述べている。Brown & Levinson は、人間には、コミュニケーションに関わる「基本的欲求」として、「他人からの理解、共感、称賛されたいという欲求 (ポジティブ・フェイス)」と、「他人に立ち入ってほしくない、邪魔されたくないという欲求 (ネガティブ・フェイス)」の二種類があるとし、これらを満たすように、「相手に配慮する言語行動」を、それぞれ「ポジティブ・ポライトネス」、「ネガティブ・ポライトネス」と呼んでいる、と紹介している。

例えば、人に話しかける時に、「お忙しいところすみませんが、ちょっとよろしいでしょうか」と前置きをつけることは、邪魔されたくないという相手のネガティブ・フェイスに配慮しているので、「ネガティブ・ポライトネス」になるとしている。言語形式が変わって、相手によっては、「忙しいとこ、悪いけど、ちょ

っといいかな」というくだけた表現でも同じで、配慮していることになり、ポライトネスの観点からは、「言語形式の丁寧度」は、ポライトネスの度合いではなく、相手との関係を指標していると捉えると述べている。「敬語を適切に使用する」ということは、社会におけるお互いの位置をわきまえて、相手の位置を侵さないということになるので、全体として「ネガティブ・ポライトネス」になるとまとめている。

10.2 ポライトネス理論からの「よろしかったでしょうか」に対するアプローチ

滝浦・大橋 (2015) は、「ご注文、以上でよろしかったでしょうか」⁵⁾に関して、問題とされる点は、注文しているのは今であるにもかかわらず「よろしかった」と過去形にするのはおかしい、というもので、これについて論述をしている。

「よろしかったでしょうか」の過去形については2つのコメントができるとして、まずは、丁寧な話し方をするときに過去形を使う地方があるとのことで、方言に言及をしている。夜のあいさつが「おぼんでした」、電話をかけてきた人が「もしもし、〇△でした」と名乗る、「いま外出していて不在だ」ということを「外出していました」と言うなど、北海道や東北でよく聞かれることに触れ、また、「よろしかったでしょうか」という表現は名古屋付近でも聞かれた、と述べていて、実際、方言から標準語に入った可能性もあるとしている。

しかし、背景事情はそれにとどまらず、表現を丁寧にしようとするとき、現在のことを過去形にして表現するという手法が、ポライトネスの表現としてかなり典型的だということに言及して次のように述べている (p.226)。

たしかに、客の注文は、「いま・ここ」でなされているのだが、それをそのまま表現してしまうと、眼前の客を「言葉で指さす」ような強さが感じられかねない。そこで「いま・ここ」を操作的に非「いま・ここ」に変えて表現するという戦略が生まれる。実際これは、ポライトネスのコミュニケーションとしてはネガティブ・ポライトネスの代表ともいえ、例えば英語のポライトネスでも常套手段の一つである。

「いま・ここ」の提案にほかならないものを過去形で

言うことが控え目に聞こえるのは、ごく普通のことであるとして、次の例文を示している。

26. I was wondering if it might be better for us to think it over. 「考えなおした方がいいんじゃないかと思ったんですが」

ここの日本語訳も「思ったんですが」となっており、これを現在形で「～いいと思います」のように言うと突きつけるような強さを帯びやすい、と述べている。「控えめ」というネガティブ・ポライトネスを表現したいと思うなら、過去形にするという戦略は諸言語で有力な候補となる、としている。

滝浦 (2005) も、「現在時制よりは過去時制の方が、ネガティブ・ポライトネス的表現となる」 (p.181) として、(店で注文を復唱した店員が使う)「ご注文のほう、以上でよろしかったでしょうか？」は、過去形による「時間的距離化」を用いたポライトネス創出の新たな例とも見える、としている。

洞澤 (2004) は、日本語は、本来、相手に対して距離をおくことによってコミュニケーションを円滑に進める言語的戦略をとる「ネガティブ・ポライトネス」の言語であることに言及し、「心理的距離」の観点から「バイト敬語」を考察している。話し手から見た場合の相手(他者)との心理的距離感を「親疎の意識」とし、若者たちの間では、この「親疎の意識」にもとづいた敬語意識が顕著な傾向として認められる、と述べている。つまり、相手に対して「親の意識」がある場合に「タメ口」になり、「疎の意識」がある場合に敬語表現(バイト敬語を使う)となる、と述べている。

南 (2009) は、「過去形のほうが現在形より丁寧さが増す」として、それは、時制が時間ばかりでなく心理的距離も表現しているからだと考えられる、と述べている。(東北地方の一部も含めて)北海道では、前提のあるなしにかかわらず「タ」形を用いることで、丁寧もしくは婉曲的な表現にしていることに触れ、「これはネガティブ・ポライトネスの戦略と合致する」と述べている。さらに、「問題なのは、『よろしかったでしょうか』が、なぜ聞き手に違和感もしくは不愉快さを感じさせるかである」と問題点を挙げている。

以上のように、ポライトネス理論から見ても、「よろしかった」の「タ」には、過去形による「時間的距

離化)を用いたポライトネス創出の例と見なすことができ、このような過去形による「時間的距離化」は英語にも共通したストラテジーと考えられるようである。

1.1. 違和感について

今まで考察して来たように「よろしかったでしょうか」には時間的・心理的距離感による丁寧さがあることがわかったが、前節で南(2009)も述べているように、「よろしかったでしょうか」が、なぜ、聞き手に違和感もしくは不愉快さを感じさせるかという問題が残る。この問題について、(A)・(B)・(C)の3つのパターンの表現毎にどうして違和感が生じるのか考察してみたい。

(A)のパターン：

[ファミリーレストランで注文後に]

店員「コーヒーとパンケーキセット、ご注文は以上でよろしかったでしょうか」

このパターンは、「注文が以上でよいか」と今確認しているのだから、「タ」は過去のことを言うときに使われる言葉だ、という思い込みがあると、違和感が生じると思われる。あくまでも今のこととして捉えている場合は違和感を感じるかもしれない。

首藤(2007)は、「お客が注文をした時点と店員が確認を行った時点(「コーヒーとパンケーキセット、ご注文は以上でよろしかったでしょうか」)は少し時間的にずれはあるが、その時間的差は極めて小さい」

(p.261)としている。その状況で、「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」と、「タ」を使って、お客の注文内容に一致していることを店員がお客に確認する必要があるのか、というところから違和感が出て来ていると解説を加えている。

「よろしかったでしょうか」の「タ」には、過去性や非現在性があり、そのため丁寧さを持つ表現である、という理解が聞き手側になれば、丁寧さは伝わらず、違和感が生じることになる。

(B)のパターン：

[ファミリーレストランに入っただけ]

店員「禁煙席でよろしかったでしょうか」

これについては、まだ店内で食べると言っていない

のにいきなり聞かれると、おかしいと感じる人が多いと思われる。

これについては、語用論の「前提」の観点から違和感の説明ができるので、語用論における「前提」について少し触れてみたい。

小泉(2001)は、「前提」について、次のように定義している(p.64)。

発話が文脈にもとづいて適切となるための必要条件であり、発話の中で話し手・聞き手が共通に了解していること。

首藤(2007)は、この(B)のパターンについては、「聞き手(お客)の視点からみると話し手(店員)が前提として提示しているものが発話以前に聞き手に共有されていない」ことによって生じる違和感であると論じている(p.256)。すなわち、このパターンには、対話を切り出す時に、お客が禁煙席の方を望んでいて、それを店員も了解している、という「前提」がないためである、ということになる。

(C)のパターン：

[ファーストフード店の注文カウンターで]

客「チーズバーガー一つとコークのスマールください」

店員「フライドポテトはよろしかったでしょうか」

(C)のパターンについては、首藤の表現の仕方を使えば「xワよろしかった」と「ワ」を付けている表現となる。

「xワよろしかった」というのは大まかに2つに分類でき、たとえば、コンビニのレジで「割り箸はよろしかったでしょうか」と店員が使う場合の「xワよろしかった」は、秋月(2005)も述べているように、「客の要求を、店の側が推測して行うサービスの1つ」(p.131)のために丁寧に聞いている表現と見なすことができるが、「過去」が介在する余地はまったくないと、客側が感じれば違和感を与える表現となろう。

また、「xワよろしかった」には、首藤によると「お客はxを欲しないこと」の意味があるため、(A)・(B)のパターンの表現とは異質な表現となるとしている。渡邊(2006)もこのパターンは他の(A)と(B)のパターンとは異質であることを述べている。渡邊によると、(A)・(B)のパターンの「よろしい」は、「必要に適合している」という意味であったのに対して、この(C)

の 패턴の「よろしい」は、「不要である」という意味になり、「xは不要かどうか」と尋ねていて、「結果的には、婉曲な売り込みと解することができる」

(p.65)と述べている。従って、秋月も述べるように、余計なお世話と解釈されれば、違和感が不快感を生じさせることになる。

つまり、(A)と(B)のパターンについては、宮田(2009)も述べているように、「よろしかったでしょうか」という表現が、ホスピタリティの精神と客側に受け取ってもらえればよいが、そうではない場合は、逆効果を招くことになる。(C)のパターンの表現についても、お店側の都合と受け取られれば、これも違和感が聞き手側に生じることになる。

1.2. まとめ

「よろしかったでしょうか」は、方言で「タ」を使うと丁寧になる用法があるために、それがベースになっている可能性はあり、また、敬語の使い方に不慣れたアルバイトの若者たち用の「マニュアル敬語」として普及してきた可能性もある。

「よろしかった」の「タ」は、丁寧に確認する意味を持っていることはわかったが、アンケートの結果などからは、接客場面で使われる「よろしかったでしょうか」については、それを使う店員側は「丁寧さ」を必ずしも意識して使っている訳ではないこともわかった。お客と店員との適度な距離感を保つための便利な表現として、みんな使っているから、という理由で定着して来ているとも考えられる。

「よろしかったでしょうか」と英語との接点であるが、言語形式や意味の観点からも、語用論の観点からも類似性はありそうであるということがわかった。特に、Huddleston & Pullumの論は、渡邊の論じる「よろしかったでしょうか」の「タ」の過去性や非現在性が持つ性格と通じる点が多く、類似性が認められると言えそうである。

一方で、「丁寧さ」は、言語表現のみだけではなく、相手や場面に応じて使い分けることから生じるものなので、状況に応じて適度なバランスが必要で、必ずしも丁寧さが伝わらない場合もあることを「よろしかったでしょうか」の例からも理解できるかと思う。

いずれにしても、言葉は生きており、以前は違和感を持たれていた表現も、いずれ定着して、「よろしか

ったでしょうか」に対する違和感も薄れてくる可能性はあると思う。今後の推移を興味深く見守りたいと考える。

注

1) 稲垣吉彦(2004)は、「新丁寧語」という用語について、「ファミレスやコンビニなどのアルバイト先の仲間から聞いて丁寧語のつもりだと思って覚えて若者たちの中の新しい言い方。ファミ・コン言葉、バイト語とも」と説明している(p.1143)。しかし、実際のところは、「新丁寧語」という呼び方は一般的ではないようである。洞澤伸・佐伯麻美(2014)は、「バイト敬語」に関して、「特にファーストフード店、コンビニエンスストアおよびファミリーレストランの三業種においてよく使われると言われている。また、お客に対する敬語のような丁寧な意味合いも幾分感じられる。このことから、これらの接客表現は『バイト敬語』の他、『コンビニ敬語』『ファミレス敬語』または『ファミコン言葉』(=『ファミレス』+『コンビニ』)とも呼ばれている。しかし、実際には上記の三業種に限らず、一部の接客業において、ほぼ全国的に広く用いられている」と述べている(p.26)。

2) 研究者によって「タ」が使われたり「た」が使われたりしているが、本稿では「タ」で統一した。

3) NIKKEI STYLEの2015年2月4日版「『よろしかったでしょうか』 実は正しいバイト敬語」によると、ファミリーレストラン「ロイヤルホスト」を運営するロイヤルホールディングスは、2003年に「正しい言葉遣い5項目」として「千円からお預かりします」ではなく「千円、お預かりします」を、「〇〇でよろしかったでしょうか」を「〇〇でよろしいですか」または「〇〇でよろしゅうございますか」など含む5項目をポスターにして各店舗に張り出したと述べられている。

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO82543200Z20C15A1000000/>

4) 原文では「ダ」となっていたが、「タ」だと判断して「タ」にしている。

5) 原文では「ご注文の方、以上でよろしかったでし

ようか」になっていたが、「の方」は別の議論が必要な表現で本稿では扱っていないため「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」に変更した。

参考文献

- 阿部 新 (2011). 「『よろしかったですか』等の表現の自然さに関するアンケート調査の分析」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 41号, pp.127-145.
- 秋葉正枝 (2006). 読売新聞 2006年6月18日 Y&Y 日曜版 7面 マナーBiz.
- 秋月高太郎 (2005). 『ありえない日本語』ちくま新書.
- Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad Edward Finega (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Pearson Education Limited.
- Biber, Douglas, Susan Conrad, Geoffrey Leech (2002). *Longman Student Grammar of Spoken and Written English*. Pearson Education Ltd.
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1978・1987). *Politeness some universals in language usage*. Cambridge University Press.
- 樋口万里子 (2001). 「日本語の時制表現と事態認知視点」『九州工業大学情報工学部紀要. 人間科学篇』 14, pp. 53-81.
- 洞澤 伸・岡 江里子 (2006). 「『バイト敬語』を使う若者たち:話し手の心理と聞き手の印象」『岐阜大学地域科学部研究報告』 Vol.19, pp.1-31.
- 洞澤 伸・佐伯麻美 (2014). 「バイト敬語『～になります』の使用場面と聞き手が覚える違和感について」『岐阜大学地域科学部研究報告』 Vol. 34, pp.13-29.
- 堀尾佳以 (2022). 『若者言葉の研究 SNS時代の言語変化』九州大学出版会.
- Huddleston, Rodney and, Geoffrey K. Pullum (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge University Press.
- 飯田朝子 (2002). 「〈新・接客表現〉はことばの乱れか変化か」『月刊言語』大修館書店, 31(9) 8月号, pp.52-56.
- 飯間浩明 (2021). 『日本語はこわくない』PHP 研究所.
- 稲垣吉彦 (2004). 「ワードウォッチングの解説」『現代用語の基礎知識 2004』自由国民社, p.1143.
- 洞澤 伸 (2004). 「『親疎の意識』を基軸とする若者たちの言語行動 - 『タメロ』『敬語表現による拒絶』『バイト敬語』-」稲生 勝・津田雅夫・林 正子・洞澤 伸『文化的近代を問う』文理閣, pp.79-120.
- 井上史雄 (2007). 『その敬語では恥をかく!』PHP.
- 井上史雄 (2017). 『新・敬語論 なぜ「乱れる」のか』NHK 出版新書.
- 岩崎憲一・久野雅樹 (2011). 「日本語における『タ』形表現の多様性とその変動」言語処理学会第17回年次大会発表論文集, pp. 671-674.
- 梶井厚志 (2010). 『コトバの戦略的思考ーゲーム理論で読み解く「気になる日本語」ー』ダイヤモンド社.
- 梶原しげる (2005). 『そんな言い方ないだろう』新潮新書.
- 金水 敏 (1998). 「いわゆる‘ムードの「タ」’についてー状態性との関連からー」東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集編集委員会 編『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』汲古書院. pp.170-185.
- 金水 敏 (2001) 「テンスと情報」音声文法研究会 編『文法と音声Ⅲ』くろしお出版, pp.55-79
- 加藤重広 (2002). 「言語使用者における動機のあり方について」『富山大学人文学部紀要』 36, pp. 43-49.
- 北原保雄編 (2004). 『問題な日本語ーどこがおかしい?何がおかしい?ー』大修館書店.
- 北原保雄編著 (2005). 『続弾 問題な日本語ー何が気になる? どうして気になる?ー』大修館書店.
- 古保美夏 (2019). 「バイト敬語の違和感と使用について」『論文集/金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学演習 [編]』 14 卷, pp.15-30.
- 小泉 保 (2001). 『入門語用論研究ー理論と応用ー』研究社.
- 国広哲弥 (1967). 『ELEC 言語叢書 構造的意味論ー日英両語対照研究ー』三省堂.
- 久野 暲・高見健一 (2013). 『謎解きの英文法 時の表現』くろしお出版.
- Leech, Geoffrey (2004). *Meaning and the English Verb (Third Edition)*. Routledge.

- 南 雅彦 (2009). 『言語と文化ー言語学から読み解くことばのバリエーション』 くろしお出版.
- 宮田公治 (2009). 「『～はよろしかったでしょうか』は押しつけか丁寧か」 中山緑朗他編『みんなの日本語事典 言葉の疑問・不思議に答える』明治書院, pp.60-61.
- 森田良行 (2006). 『話者の視点がつくる日本語』ひつじ書房.
- 森山卓郎 (2009). 「過去を表さない日本語の『過去形』」 森山卓郎編著 『国語からはじめる外国語活動』慶應義塾大学出版会, pp.224-225.
- 西川三恵子 (2005). 「『新丁寧語』についての調査・研究」 『名古屋経営短期大学紀要』 46, pp.61-65.
- 野口恵子 (2009). 『バカ丁寧化する日本語 敬語コミュニケーションの行方』 光文社新書.
- 奥秋義信 (2007a). 「放送言葉に警告! (6) 『よろしかったでしょうか』、現在完了形を表し、誤用ではない」 『新・調査情報: passingtime』 (TBSメディア総合研究所編) 2期 67号, pp. 56-61.
- 奥秋義信 (2007b). 『勘違い敬語の事典 型で見分ける誤用の敬語』 東京堂出版.
- 奥秋義信著 (2011). 『残念な日本語 間違っただけの放送・マスコミ言葉に警告!』 毎日新聞社.
- 奥村由香子 (2003). 「ことばの変化ー正しい日本語・乱れた日本語・変化する日本語ー」 飯野公一・恩村由香子・杉田 洋・森吉直子著. 『新世代の言語学ー社会・文化・人をつなぐものー』 (2003) くろしお出版, pp.36-45.
- 大西泰斗 (2020). 『英文法をこわす 感覚による再構築』 NHK 出版新書.
- 大杉邦三 (1982). 『英語の敬意表現』 大修館書店.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, Jan Svartvik (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- 劉 志偉 (2011). 「『よろしかったでしょうか』は誤用なのか」 『歴史文化社会論講座紀要』 (京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座) 8, pp.21-30.
- 定延利之 (2004). 「ムードの『た』の過去性」 『国際文化学研究: 神戸大学国際文化学部紀要』 21, pp. 1-68.
- 佐久間 淳一 (2007). 『はじめてみよう言語学』 研究社.
- 真田信治 (2002). 『方言の日本地図 ことばの旅』 講談社+α新書.
- 佐藤琢三 (2009). 「「間違い」は本当に間違いかー文法研究から見た「間違い」ー」 『日本語学』 352, 7月号, 明治書院, pp. 4-13.
- 首藤 佐智子 (2007). 「前提条件操作の限界: 『よろしかったでしょうか』の語用論分析」 日本言語学会 第135回大会予稿集, pp.256-261.
- 塩田雄大 (2002). 「『よろしかったでしょうか』はよろしくないかー平成13年度(後半)ことばのゆれ全国調査から(1)」 NHK放送文化研究所 編『放送研究と調査』 52(3), pp. 64-87.
- 曹 美庚 (2003). 「『タ』のメンタル・スペース理論的解釈」 『人間環境学研究』 (広島修道大学人間環境学会) 1(1-2), pp.63-79.
- 宗宮 喜代子 (2007). 「英語と日本語の『時制・相』について」 『東京外国語大学論集』 第73号, pp.1-19.
- Swan, Michael (2016) *Practical English Usage (Fourth Edition)*. Oxford University Press.
- 竹林一志著 (2011). 『これだけは知っておきたい言葉づかい 時とともに言葉が変わる理由』 笠間書院.
- 谷口一美・田丸歩実・小川陽香・貝森有祐 訳 (2021). Rodney Huddleston・Geoffrey K. Pullum 著『動詞と非定形節, そして動詞を欠いた節』 (『英文法大事典』 シリーズ1) 開拓社.
- 高橋基治 (2015). 「丁寧用法を軸に添えた英文法指導」 『人文・社会科学論集』 (東洋英和女学院大学) 第32号, pp.31-52.
- 滝浦真人 (2005). 『日本の敬語論 ポライトネス理論からの再検討』 大修館書店.
- 滝浦真人・大橋理枝 (2015). 「日本語とコミュニケーションー日本語のいま・これから」 『日本語とコミュニケーション』 放送大学教育振興会, pp.222-236.
- Taylor, J.R. (2003) *Linguistic Categorization (Third Edition)*. Oxford University Press.
- 寺村秀夫 (1971). 「‘た’の意味と機能ーアスペクト・テンス・ムードの構文的な位置づけー」 岩倉具実教授退職記念論文集出版後援会編『言語学と日本語問題』 くろしお出版, pp. 244-289.
- 鳥光 宏 (2011). 『「古文」で身につく、ほんものの日本語』 PHP 新書.

- 梅津正樹 (2005). 「『コンビニ敬語』を斬る！」NHK
アナウンス室ことば班編 『ことばのおじさんの気
になる言葉』 日本放送出版協会 生活人新書,
pp.60-62.
- 梅津正樹 (2007). 「ことばおじさん『よろしかったで
しょうか?』はOKですか?」日本共産党中央委員
会『女性のひろば』343号(9月号), pp. 60-63.
- 宇佐美まゆみ (2001). 「21世紀の社会と日本語ーポ
ライトネスのゆくえを中心にー」『月刊言語』大修
館書店, 30(1)1月号, pp.20-28.
- 渡邊淳也 (2006). 「フランス語の『丁寧の半過去
(imparfait de politesse)』と日本語の『よろしかっ
たでしょうか』型語法との対照研究」『文藝言語研
究 言語篇』(筑波大学文藝・言語系) 50, pp. 41-84.
- 渡邊淳也 (2007). 「フランス語の『丁寧の半過去』と
日本語の『よろしかったでしょうか』型語法」『フ
ランス語学研究』41 (1), pp.54-59.
- 山岸弘子 (2007). 『あたりまえだけどなかなかできな
い敬語のルール』明日香出版社.
- 米川明彦著 (2006). 『これも日本語! あれもニホン
語?』NHK 出版.
- 吉岡泰夫 (2002). 「ことば Q&A」『国語研の窓』
(国立国語研究所) 第11号, p.6.